

新野小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人ひとりの子どもを見取り、個にあった支援の工夫
- 言語活動や体験活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。

学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b> 研修主任:森下淳子	<b>委員</b> 校長:村田治久 教頭:井上友美 教務主任:村上実紀子 佐藤夏海 株木祐祐 樋口尚憲 久米智宏 宮本敬美 中田光明
-----------------------------	---

校長

村田 治久

◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●姿勢を正し、人の話を集中して聞くことが苦手な児童がいる。 ●語彙が乏しく、授業や学校生活の中で分かりやすく説明したり、他の人の話を理解したりすることが難しい児童が多い。	・学習の過程を通して習得した知識が定着し、他の学習の場面で活用することができる。 ・正しい学習習慣を身に付け、学習に取り組むことができる。 ・学年相応の語彙を習得し、問題を正確に読み取ったり、先生や友だちの話を聞いて、共感したり理解したりすることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。(主語や述語、筆者の考えや事例など) ・朝の活動(花まるタイム)や家庭学習などを利用し、読み書き計算等の反復学習に取り組む時間を確保する。また、読解力の基礎となる読書習慣を身につけさせる。	・教科書等にアンダーラインを入れることによって正確に読み取れるようになってきているので、次は自分で考えて必要な箇所に線を入れられるよう指導をする。 ・反復学習の仕方を学年の発達段階に応じて工夫しながら継続していく。	・大事な箇所にアンダーラインを入れることによって、文章の組み立てや要点を意識できるようになった。 ・朝の活動を利用したりや習熟度別のプリントを準備したりすることによって漢字や計算の反復練習ができ、基礎学力の向上につながった。	・読書時間を確保することで読解力や語彙力の向上につながる。 ・反復学習など効果的であった方策を継続して行うとともに、理解や定着につながる支援方法を発達段階に応じて工夫する。 ・発達段階に応じた数値目標等具体的な目標を設定して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○経験したことや考えたことなどを、作文や日記に書き表すことができる。 ●表現したいことを自分の言葉で分かりやすく伝えることが苦手である。 ●間違いを恐れて発表をしない児童がいる。 ●考えながら話を聞くことができない児童が多い。	・語彙を増やし、自分が伝えたい内容に合う言葉を選んで表現できる。 ・自分の考えと同じところや違うところを見つけながら意見を聞くことができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・実態に応じためあてをもたせ、書く・発表する機会を意図的に多く設ける。(テーマ日記・行事作文・学級会・学年発表・学習発表会)	・ペア学習等が効果的であったので、異学年同士でも伝え合う活動を取り入れていく。 ・発表する機会を多く取り入れることによって、伝える内容をよく考えるようになってきているが、聞き取ることについては不十分である。	・ペア学習やグループ発表を取り入れることで多様な考えに触れたり自信を持って発言したりできる児童が増えた。 ・発表内容を考えたり思考を深めたりするのにタブレット端末の使用が有効であったが、表現力の向上という点ではまだ不十分である。	・ペア学習やグループ学習、ICTの活用など、必要に応じた学習方法を効果的な場面で取り入れる。 ・テーマ日記や行事作文を書く機会を適宜取り入れることによって表現力や語彙力の向上を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる児童が多い。 ●与えられた課題以外や不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて粘り強く取り組める児童が少ない。	・課題解決に向けて自分の力で粘り強く考えることができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を解決できるよう質問をしたり調べたりすることができる。	・児童の主体的な体験や活動(タブレットの活用など)を授業に多く取り入れ、意欲的な活動を賞賛する。 ・授業のめあてを提示し、記述させる。 ・家庭との協力を密にし、家庭学習の習慣化や自主学習の定着化を図る。	・タブレットの活用によって意欲的に学習できる児童が増えつつあるので、活用の仕方についてさらに工夫が必要である。 ・めあてを意識した学習により児童の思考等に深い学びが見られる。振り返りの方法を工夫することによって学習への向かい方にさらに効果が見られるのではないかと。	・めあてを意識した学習により何を学ぶかが明確化され、意欲的に学習できる児童が増えた。また、振り返りを意識したり共有したりしたことさらに学びが深まった児童が見られた。 ・家庭学習チャレンジを活用することで、普段の学習の目標設定に役立てることができた。	・「家庭学習の手引き」を定期的に活用するなどして、家庭学習の充実や自主学習ノートの有効活用を図る。 ・個別に振り返ったりまとめたりする時間を設けることで達成感等を実感できるようにし、次の学びへの意欲につなげる。

令和6年度 学力向上ロードマップ

